

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日

平成20年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2870902489		
法人名	医療法人社団 健癒会		
事業所名	ふれあいの家		
所在地	兵庫県西宮市山口町船坂字下ヶ平柏木谷1825-3 (電話)078-903-2526		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成20年3月4日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは緑に囲まれた高台に位置し、入居者は四季折々の自然の美しさを感じつつ穏かな時間の流れの中でゆったりとした生活を送っている。立地条件的に地域住民との触れ合いが難しい環境ではあるが、ホームは地域への働きかけに積極的で、小学校との文化祭等での交流や自治会行事等への参加を継続し、地域とのコミュニケーションが図れるよう努めている。2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、参加者の方々がホームに理解を示し協力的で、活発な意見交換の場となっている。ホームは地域に開かれた事業所を目指し、外部からの風を積極的に取り入れ、地域とともに協働し支え合う関係が維持できるよう職員全体で常に検討を重ねている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	職員は評価の狙いや意義を理解し、ホームのサービスの質の向上にむけて話し合っている。感染症マニュアルの充実や苦情相談対応の整備等について検討し改善に繋げている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は、職員全体で6ヶ月毎に定期的に取り組んでおり、評価項目に対する理解も浸透し、日常のケアの場面での気付きや確認の機会となっている。今回の評価も職員一人ひとりが評価項目に沿って振り返りや見直しを行いまとめあげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	2ヵ月に1回の定期的な開催が継続され、ホームの現状・年間の行事等を報告すると共に毎月発行している「ふれあい通信」についての内容も伝えている。参加者からの意見や要望を積極的に取り入れ、ホームの運営に生かしている。地域との連携も深まり、地域資源の活用や地域とのネットワーク作り等、地域と共に支え合う関係が構築されている。会議等を通じて自治体との関わりも増し、適切な指導や助言を受け協力関係を築いている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族の来訪時に金銭管理・受診状況・職員の異動等伝えている。ホーム便りの中に入居者一人ひとりの様子を記載する欄を設け状況を細かく伝えるよう工夫している。重要事項説明書に苦情窓口を明示し、玄関に意見箱を設置している。併設施設とのCS委員会等を通じて、その時々家族の苦情や相談を全体会議等で検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	小学校との交流がきっかけとなり地域との関わりが増し、自治会行事の盆踊り・秋祭り等の参加を通して交流が継続している。今後は自治会活動の一環として、清掃活動への参加を検討している。運営推進会議の中で地域交流について検討し合い、役員の協力も得て更に地域とのつながりが拡大しつつある。

【情報提供票より】(平成19年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日,平成18年7月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤6人,非常勤8人,常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月15日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名
要介護1	7	要介護2	6		
要介護3	3	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.2歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊中平成病院 よしはら歯科
---------	---------------

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を考慮しながら理念を作りあげている。家庭的な環境と地域住民との交流のもとで「自由」「尊厳」「歓び」のある暮らしの実現を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや全体会議を通じて職員間で理念を共有し、日々の業務の中で実践していくよう取り組んでいる。ケアプラン作成時は理念が反映されるよう意識し取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校との交流がきっかけとなり地域との関わりが増している。自治会活動に積極的に参加し、盆踊り・秋祭り等の行事を通して交流が継続している。今後は自治会活動の一環として清掃活動への参加を検討している。運営推進会議の中で地域交流について検討し合い、役員の協力も得て更に地域との繋がりが拡大している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価のねらいや意義を職員は理解し、具体的な改善策について話し合い、感染症マニュアルの充実や苦情相談対応への整備等を検討し改善に繋げている。自己評価については、6ヶ月毎に職員全体の定期的な取り組みがあり、今回の評価も職員一人ひとりが評価項目に沿って取り組んでいき、まとめを管理者が行った。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回開催している。ホームの現状・年間の行事等を報告すると共に毎月発行している「ふれあい通信」についても報告している。参加者からの意見や要望を積極的に取り入れホームの運営に生かせるよう取り組んでいる。参加メンバーを通じて地域との連携が深まり、地域資源の活用、地域とのネットワーク作り等、地域と共に支え合う関係が構築されている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>開設時より自治体の担当者との関わりがあり、管理者は運営面や制度面について相談し、適切な指導や助言を受ける等協力関係を築いている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には管理者等が対応し、金銭管理・受診状況・職員の異動等伝えている。毎月1回発行するホーム便りの中に入居者一人ひとりの様子を記載する欄を設け入居者の暮らしの状況を細かく伝えるよう工夫し家族との意思疎通を図っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情窓口を明示し家族に説明すると共に、玄関に意見箱を設置している。来訪時には家族から率直な意見を聞けるよう配慮し、併設施設とのCS委員会等を通じて、その時々家族の苦情や相談を全体会議等で検討し記録に残している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での職員の異動については入居者へのダメージを防ぐよう努めており、職員の離職に関しても馴染みの関係への影響に配慮するよう心掛けているが充分な対応ではない。</p>		<p>職員の定着の為の勤務体制や職員教育への取り組みを検討すると共に、異動等ある場合は引継ぎの徹底等の検討が望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に関しては掲示等で職員に案内し情報提供を行っており、研修内容によっては交通費等の支援がある。研修受講後は報告書を作成し、月1回の研修報告会により職員間で情報共有している。内部研修は職員会議の中で実施するよう努めているが年間研修計画の作成はない。</p>		<p>職員の資質や経験・希望等に応じて個々がスキルアップできるよう年間計画を立て確実に受講できる体制が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内のグループホーム連絡会が定期的開催され、ホーム間での情報交換の場やお互いのホームのレベルアップが図られ、ネットワーク作りの機会となっている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の自宅訪問での面談やホーム見学を通して利用者や家族の不安がないよう配慮している。法人内の施設からの入所の場合は事前の試し入居を勧める体制が整っている。ホームの暮らしに徐々に馴染めるよう、通いから初めて慣れた頃に入所に移行する試みも行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの暮らしの中で職員は入居者一人ひとりを尊重し、同じ目線で自然に接することができるよう心掛けている。家事の場面（食事作り・掃除・洗濯等）で若い職員に入居者が教える機会や入居者同士で助け合う等の場面があり、個々の入居者の個性や力量が生かせる機会を作るよう配慮している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にセンター方式の一部を使った様式を活用し、利用者・家族の環境や意向を把握すると共に、日常の暮らしの中で、職員との会話や入居者同士の会話の中から個々の思いを把握できるよう努めている。月に1回カンファレンスを実施し、入居者の心身の状況の変化や職員間での気づきがないか話し合うよう取り組んでいる。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族との面接にて生活歴等を把握しアセスメントを行い、カンファレンスにて職員間で話し合いのもと、入居者本位の介護計画を作成している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>カンファレンスにて個々の入居者の問題点等を話し合い、定期的に3ヶ月に1回の見直しを実施している。入居者に状態変化があれば随時現状に合った計画の見直しを行っている。日常の介護記録は統一された様式のもとで、職員間での記録にずれが生じないように工夫している。</p>		<p>状態変化のある入居者と共に、安定した状況でも月に1回程度の介護計画の振り返りや見直しが望ましい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を整え24時間体制で入居者の健康管理を行っている。本人や家族の希望に沿って個別での外出の支援や、入居者の入院時の面会等で退院に向けての相談や支援を行っている。</p>		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医への通院は家族の要望があれば付き添いを行い、また家族が付き添う場合についても、本人の健康状態について担当医へ文書にて情報提供するよう取り組んでいる。協力医や法人の看護師と連携し、日常の健康面や急変時の対応がスムーズにできる体制を整えている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の重度化や終末期におけるホームの指針は文書にて入居時に家族に説明し同意を得ている。ターミナルの受け入れ体制があり、状況に応じて個々の家族の意向に沿えるよう、その都度話し合いを重ねていくよう努めている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の尊厳を守る事を大切に、職員の言葉づかいや対応については職員間で注意し合い話し合うよう心掛けている。個人情報の保護については重要事項説明書等に明示し家族に説明している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>今までの本人の生活歴等を把握し本人主体の生活リズムにそえるよう配慮している。日常生活での役割については無理強いすることなく関心のある事から手伝ってもらい、アクティビティは個々の希望にそって参加を促し支援を行っている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>併設の法人よりの配食が基本であるが、ご飯や汁物は入居者と職員がホーム内で調理するよう取り組み、食事も共に取れるよう配慮している。適宜入居者の希望を考慮したメニューの変更や外食等を取り入れ、芋掘りや菜園で育てた野菜等を食材に使いメニューに反映し、入居者の楽しみや五感への刺激となっている。</p>		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日の入浴となっているが、入居者が入浴を希望すれば他のフロアでの入浴も可能である。入浴時間は10時から16時までの間で自由な時間に利用できるよう支援している。入浴チェック表を作成し個々の入浴状況が把握できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳や後片付け等でのテーブルクロスたたみ・食器洗い・食器拭きなどはそれぞれの役割として自然な形で行っており、入居者間での協力も見られた。ホーム内での楽しみ事として、カラオケ・映画観賞等入居者の意向に配慮しながら支援している。併設のデイサービスに参加し交流を持つ機会があり、ユニット間の入居者同士の交流もある。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通じて外食・ドライブ・買物・小学校との交流・観劇・芋掘り等の行事を実施し、地域の協力も得ながら入居者の希望にそった支援を行っている。日常的に駐車場で日光浴や体操を行い気分転換を図る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周辺は坂が多い環境の為、安全面に配慮し玄関は施錠しているが、入居者の気分転換が図れるよう個別で対応していくよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施しており、地域の協力も得ている。運営推進会議において、地域と共に災害時を想定した訓練の中で炊き出し等の試みの実施について検討している。併設の施設と共同で食料や飲料水を準備し、災害時に対応できるよう取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は記録し、併設の施設の栄養士による栄養バランスに配慮した献立をもとに、入居者の体調や好みに随時対応している。慢性疾患等の治療中の食事管理についての対応の工夫がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護老人保健施設に併設されたホームである為、ハード面では施設的な雰囲気があるが、玄関やリビング等は家族の協力を得て、家庭的な親しみを感じさせる家具や装飾品を置き、適宜ソファやテーブルを設置し入居者がくつろげるスペースを大切にしている。入居者が地域の文化祭に出展した作品や手作りのカレンダー等を飾り、季節感を出したり五感刺激となるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入り口には入居者の好みの暖簾を掛け部屋間違いを防ぐ工夫を行い、家族の協力のもと使い慣れた家具や物品を持ち込み安心して過ごせる空間となっている。</p>		

 は、重点項目。